

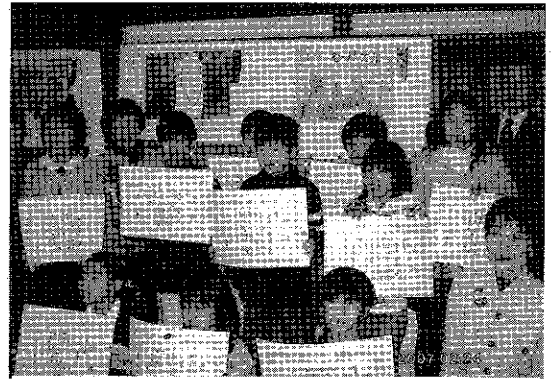
# 〇〇〇 平成18年度 土清絵画作文コンクール表彰式 〇〇〇

日時；平成19年2月24日（土）10時～11時

場所；谷川土清旧宅

## 式次第

- 開会（10時）
- 主催者挨拶：馬場幸子代表代行
- 来賓挨拶：津市教育長 佐々木典夫氏（写真向って右後列）
- 表彰式：土清大賞・市長賞・教育長賞・特選・入選の順
- 講評：作文の部（竹内令さん）
- 絵画の部（谷岡経津子顧問）
- 発表：大賞を受けた梅田さんの作文朗読と、絵画と作文ダブル入賞の辻さんが感想を発表
- 閉会（11時）



喜びの受賞者たちと絵画作品

## ＜入賞作品紹介＞

### 作文の部

- 土清大賞 梅田雅巳（附属4）・津市長賞 辻 奈津美（附属4）・教育長賞 岩永 結（附属4）
- 特選 田村佳澄（新町4）・国森真菜美（新町5）・松田紗波（神戸4）・小西真太郎（附属4）
- 入選 篠田梨央（新町4）・西島健太郎（附属4）・宮原由莉（附属4）

### 絵画の部

- 土清大賞 辻 奈津美（附属4）・津市長賞 田中瑞季（附属4）・教育長賞 伊藤莉子（新町4）
- 特選 福持虎太郎（西が丘4）・西島健太郎（附属4）・清水大地（附属4）・佐脇歩夢（新町4）
- 入選 森 真佑子（附属4）・飯田久路（附属4）・榊原 卓（附属4）

## ＜講評要旨＞

作文の部 竹内 令（会員・作家）

「全部で140人ほどの応募があり、その三分の一に絞られたのを四人の選者がいろいろの点から審査。今年の入賞・入選者の特徴は、全員が体を使って土清に近づこうとしていたことで、とても素晴らしい。人間は、体の感覚を総動員して初めて、物事が理解できるのだから。また入賞者三人は、表現力が豊かだった。読書によって言葉をたくさん蓄えていること、感情が豊かだということがその原因。教育長賞の岩永さんは欠席だったがユニークな視点でとらえていたのが印象に残った。

入賞・入選の皆さんは、今後一層、土清を追いかけて欲しい。土清が国語辞典をイロハ順から五十音引きに転換させたというが、イロハって何？五十音順って何？どうしてイロハより五十音順の方がいいの？と。ハテナ？の森に分け入って知的興味を満足させ、楽しむことが、本当の勉強なのですよ。」

ゆっくりと一人一人に話しかける調子で話してくださった。

絵画の部 谷岡経津子（顧問・四日市大学教授・日展作家）

この「谷川土清の会」ができた頃から、土清ソーレという歌を公募して作られたこと、24日・25日に上演される演劇「ことすが和訓栞伝」の中で新町小学校の4年～6年の子たちが子狸になって土清ソーレを踊ることの紹介を前置きに、「入賞作品はそれぞれに特色があって、大賞の辻さんの絵は、和語通音を書いている土清さん、その後ろの小道具まで想像して細かくしかも生き生きと描かれている。市長賞の田中さんは、パンフレットでおなじみの土清さんの老年期の顔の特色が出ていた。特選の西島君は狸を診察している医者 of 土清さんを想像して描いている。」「残念なのは応募作品の数が少なかったこと」と結ばれた。

二人の大賞受賞者に感想を聞くと、「大賞に選ばれて、びっくりしたがうれしかった。土清さんはなんて努力家なんだろうと思った。」（梅田さん）「土清さんが、本居宣長さんより一般に知られていないのはなぜ？津市だけでなく全国的に知ってもらうために、インターネットにHPを立ち上げるといい。なぜ作っていないの？そして放送などもしていくといいと思います。」（辻さん）

（メモ）表彰式当日は、格別冷え込んだが、家族総出の参加もあり、大盛況だった。

慣れぬ司会で順序やお名前を間違えるなど大変ご迷惑を掛けたこととお詫びします。（S）